

第二十一回

わか  
若樹会

ご挨拶

師走の候、皆様お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。  
扱、日本小唄連盟若手育成事業の一環として平成三年に発足致しました  
小唄「若樹会」もお陰様で本年は第二十一回を迎え、これからの小唄界  
を担う若手の登竜門として定着し益々充実した内容となりました。

日本小唄連盟は、この会が若い方々の研鑽の場となり、一人でも多く、  
すぐれた演奏家が誕生することを念願いたしております。  
皆様におかれましては、この「若樹会」を温かくお見守り下さり、  
格別のご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

平成二十三年十二月吉日

社団  
法人 日本小唄連盟

(審査対象者は太字)

一 花の神田

蓼 中 胡満時江 瀬久美子

二十四 磯の月 三千世界

長生恭帆 長生松帆

二 佃流し

菊岡 岡田 優子 弘

平成十八年度

二十五 雪がちらちら やぼな屋敷

蓼 時あや 胡満時江 胡秀生

三 筆の傘

井筒 寿美 佐伯 しおり

平成十六年度

二十六 水さし 羽織させかけ

和敬梅 由三郎

四 心して

松峰 照 井上 春緒 上松 峰照 香

五 きぬぎぬの鐘

若宮 三千弓 若宮 弓鳥貴

二十七 味 今日も又

千紫 巳恵佳 千紫 巳恵

六 秋の夕べ

白扇 夕樹夫 白扇 夕樹弥

二十八 辰巳の左棲

常磐 とも米 常磐 まさ米

七 磯浜しぐれ

常磐 つる秀 常磐 つる花

平成十五年度

二十九 江戸さして あの花

長生松代 長生代一郎

八 嘘のかたまり

荒木 言 春竹 利香

三十 今日一日

蓼 房まさ 蓼 房まさ香

九 かや売り

太田 一美 蓼 鈴緒

三十一 江戸祭り

菊岡 弘多枝 菊岡 弘香

十 ほれてかよう

丸山 京子 春竹 利香

十一 お互いに

不二 小りん 不二 小みち

三十二 染め分け ながい浮世に

千紫 秀巳 千紫 巳恵 千紫 巳恵佳

平成十四年度

十二 夢の柳橋

春竹 香燕 春竹 利香

三十三 富士見西行 袖がぬれます

松峰 小玉 松峰 照

十三 佃の渡し

井筒 寿美音 井筒 香弥乃

平成十三年度

十四 満月

田村 笑葉 田村 彌笑

三十四 与謝野晶子

松峰 照美 松峰 照 松峰 照佐登

十五 四万六千日

井筒 幸和 井筒 治幸滋 替井筒 幸紫

三十五 着せる羽織 来るか来るか

和敬 由三郎 和敬 梅由

十六 心でとめて

春竹利央  
春竹利昭

十七 主さん

花菱朝如  
花菱は満朝

若樹賞受賞者(受賞者は太字)

平成二十二年

十八 木枯しの  
がん首の

蓼 胡文雄  
麻生 巴奈子

十九 竹の葉に  
せかれ

花菱朝佳  
花菱は満朝  
替花菱朝夏

(唄)平成二十一年度  
(糸)平成二十二年

二十 あの日から  
水の深さ

大塚 巳穂  
春竹利乃

平成二十一年

二十一 仇情八幡祭

蓼 競文  
蓼 競文芳

二十二 初雪

田村 花枝  
田村 とよ由起

平成二十年

二十三 逢うは別れ  
五段目

小唄 幸三江  
小唄 幸三希

三十六 三千歳

田村 彌笑  
田村 わか枝

平成十一年

三十七 春雨に合相傘  
与作

蓼 史ま由  
替蓼 津満子  
胡文雄

三十八 夕やけ

葛木 伸子  
白扇 夕樹夫

三十九 お月さん兎

松峰 弥生乃  
松峰 照

平成十年

四十 かたが糸  
のびあがり

春竹利香  
春竹利昭

平成八年

四十一 河太郎  
それですもうと

井筒 綾奈美  
井筒 綾美佐

四十三 夜や更けてまこと  
緋鹿の子

蓼 鈴緒  
替蓼 奈美輝

平成七年

四十四 信濃屋  
昔すみだ

田家松 小峰  
替竹枝 せん喜美  
竹枝 せん男

四十五  
お地  
まし  
わど  
りり

蓼  
胡文雄  
津満子  
史ま由  
替蓼

四十六  
保  
名

柳  
古美代  
夕樹夫  
白扇

平成六年度

四十七  
み  
れ  
ん

蓼  
胡茂  
茂和香  
茂喜代  
蓼

平成五年度

四十八  
吉  
三  
節  
分

吏美  
いち絵  
春竹  
利昭

四十九  
勝  
名  
の  
り

扇  
よし和  
和有樹

五十  
だる  
の  
ピラ  
ピラ

松峰  
照香

■ 平成二十三年十二月三日(土) 午後十二時開演

■ 東京証券会館ホール

(地下鉄東西線・茅場町)  
☎(三六六七)九二二〇



主催・社団法人日本小唄連盟  
<http://kouta-renmei.org>